

令和6年度 学校評価 自己評価書（前期）

1 学校の重点目標

- | | |
|-------------------|----------------------|
| ○ 子ども主体の活気のある学校 | ○ 規律を重んじ心豊かな子供を育てる学校 |
| ○ 確かな学力を身に付させる学校 | ○ 学習環境が整備された学校整備 |
| ○ 地域と連携し、共に成長する学校 | ○ 組織力を生かし校務を遂行する学校 |

2 課題と改善策（※矢印は令和5年度1学期との比較）

	評価項目	職員	評価結果と改善方策（○成果 △課題 →方策）
重点項目	1 生涯にわたって生きて働く学力の育成 2 豊かな心、自信と自己肯定感の醸成 3 たくましい体、安全・安心な開かれた学校づくり	2.9↑ 2.9- 3.1↑	○「頑張る5」が児童にも浸透し、全校で共通して意識し、実践を積み重ねることができた。 △行事等の精選が進みつつあるが、児童にとっての必要性から十分検討することが大切である。 →体験的な活動を通して、社会性の基礎を向上させられる。地域と連携した活動に取り組んでいく。
生徒指導	1 開発的生徒指導の推進 2 特別支援教育や人権教育の視点を取り入れた生徒指導の推進 3 いじめ問題の適切な把握と解消に向けた取組、いじめを起こさない先手指導の推進	3.1- 3.2↑ 3.4↑	○職員と開発的生徒指導の共通理解を図り、努力の過程に光を当てる実践を積み重ねることができた。 △不登校傾向が改善された児童もいたが、学力不振等が原因で新たに登校が難しくなった児童もいた。 →市SCとの相談がきっかけとなり、関係機関との連携も進みつつある。2学期以降も継続したい。
学力向上	1 指導内容の明確化 2 取り立て指導の推進と充実 3 家庭学習の充実	2.8↑ 2.9↓ 3.1↑	○指導内容の明確化、めあての具体化、一人学習の確保、対話、振り返りの視点から授業改善を進めた。 △学力の二極化が依然としてあり、基礎学力の定着不足、思考・表現力の不足などの課題がある。 →各種調査を分析し、授業や学びタイムでの共通実践事項を校内研修を通して明確にし、実践していく。
心の教育	1 特別の教科「道徳」と読書活動の充実 2 人権教育の充実	3.0- 2.9-	○道徳コーナーの充実や職員研修を進められた。 △児童の日頃の言動には、人権意識が不十分なものも見られる。具体的な取組が必要である。 →人権意識を踏まえた授業実践や、掲示物等を工夫し、日常的な声かけを意識して行うようにする。
体力向上	1 実態把握と教科体育の充実 2 けがや病気の予防と治療の促進	2.6↑ 3.0↑	○年間を通し、意識した体力づくりが進みつつある。 △体力テスト等の実態把握をもとに、授業での補強運動の充実や、日常的な運動量の向上が課題である。 →実態に合わせた教科体育の実施と、補教運動の導入を行う。また縄跳び運動の日常化を図る。
教育環境	1 校内設営の充実 2 校内美化の推進 3 服務規律の厳正確保と業務改善の推進	3.1↑ 3.0↑ 3.1↑	○目的に沿った動的設営の実施や、空き教室等の効果的活用に向けた、環境整備を行うことができた。 △超過勤務時間の増加が見られた。 →退庁時刻を意識した業務改善を進める。

3 次学期（年度）に向けての取組

- 指導内容の明確化、めあての具体化、一人学習の確保、対話、振り返りの視点から授業改善をさらに進める。
- 学力向上に向け、校内研修を通して授業や学びタイムでの共通実践事項を明確にし、実践する。
- 「頑張る5」のうち、特に「言葉とあいさつ、人の話をしっかり聞く、手を汚す仕事を懸命に頑張る」という3つの項目について重点的に働きかけを行う。
- 基本的な生活習慣の育成（家庭学習・インターネット利用を含む）を目指し、PTAとの連携を図りながら保護者・児童の実践力を高める啓発を行う。